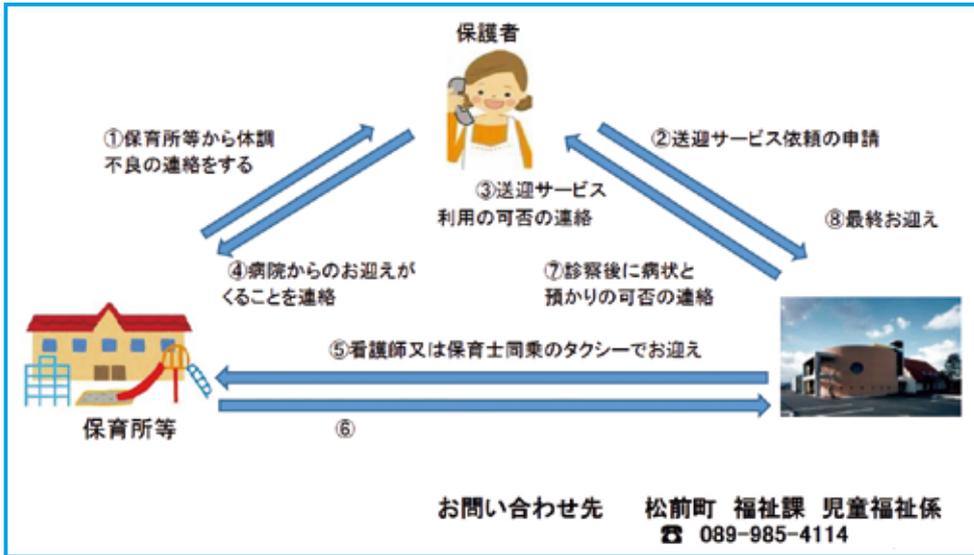




影岡 俊範 議員



## 「要援護者管理」・「被災者支援」両システムの導入は

有効だとは思いますが、研究を重ねていく

**問** 災害安全網の両システムの導入は

総務課長

要援護者管理システムは避難行動要支援者に関する台帳の検索、地図上から避難行動要支援者の検索・抽出を行うシステムで「被災者支援システム」と連携することで、

被災者支援システムは

住民基本台帳を基盤にして「被災者台帳」、「被災者家屋台帳」の2つで構成されており、被災者の状況や家屋被害状況を記録、更新する。両システムを連携する

避難行動要支援者の被災状況の把握が可能となる。

災害時においては、有効なシステムであるが、システム導入に当たっては、今後先進事例等の状況も把握しながら、研究を重ねていきたい。

ことで、避難行動要支援者を含む被災状況の把握が速やかにまた安全に行える。

IT能力のある職員が必要ということではない。  
導入費用も20万、50万円であり初期投資及びランニングコストも高額とならない。  
導入に向けて積極的に取り組んでほしい。

## 安心・安全な防犯灯のLED化は

現地調査を実施、整備拡充に努める

**問**

防犯灯のLED化は  
①町管理灯本数 (内LED本数)  
②電気代の設定方法  
③環境省の「地域におけるLED照明導入促進事業」の活用は

産業建設部長

①町管理灯本数 1957本、  
(内LED 665本)  
②蛍光灯 300円  
LED 150円  
電気代負担は、  
大字負担 1080本  
町負担 877本

時にLEDに変更している、今後も同様の方法で拡充を努めます。

③昨年度の町政懇談会や女性会議で「街灯が少なく暗いところがある」「街灯を増やして欲しい」といった意見があり、今年度、現地調査を実施し、防犯灯を整備することになっている。

これまでも防犯灯の新設時や既設灯具の更新

駅に通じる公共施設に準じるものは町負担とするべきであり、最優先でLED化して大字負担を軽減することが必要ではないか。